

喫茶

携帯電話が普及する前、皆さんはどうやって人と待ち合わせ



をしていましたか。目印になるものなど確認していたか
と思います。時には、喫茶店の中で待ち合わせというこ
ともよくあったことでしょう。その光景は今や見なくな
りました。そして、今や喫茶店という言葉すらも少なく
なりカフェと現代人は呼ぶようです。

「喫茶」の意味は、広辞苑を引くと最初に出てくるの
が「お茶を飲むこと、です。これが意外にはないです。納
得です。臨済宗を開いた栄西禪師はお茶で養生すること
を勧める「喫茶養生記」を著しています。お茶の普及と
仏教は切って考えることはできません。

「喫茶去」という唐の時代の禅僧の言葉があります。
ぼーっとしている弟子に向かって、「お茶でも飲んで目
を覚ましてこい」と叱責したのです。これが、意味が変
わり「お茶を召し上がれ」に変わっていったのです。



意味が変わってよかったです。「お茶
でもいこう」が「今から説教するぞ」では
ないのですから。

聞いていたランチが
終わってしまった...
茗住取

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を
紹介しています。

祈祷

祈ることで解決するなら
ば、いくらでも祈りたい。し
かし、世の中は祈ることで



はどうにもならないことがほとんどです。祈ることでどうにか
なった人は、どこかお幸せな人でしょう。その幸せもいつかは
手放せばならないのです。

大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」の時代は、貴族政治から武家
政治へと変わる大転換点ですが、仏教界でも鎌倉新仏教といわ
れるほどの大転換だったのです。鎌倉新仏教とは浄土宗、浄土
真宗、時宗、日蓮宗、臨済宗、曹洞宗の六宗です。いずれも宗祖
が比叡山で学び、平安時代末期から鎌倉時代にかけて活躍され
ました。そして、浄土系は念仏、日蓮系は題目、禅系は座禅と、
身分を問わなくても実践できる教えが普及していったのです。

それまでの、天台・真言の仏教は、鎮護国家として、国家を
守るための仏教として位置づけられていました。そこに、戦乱・
災害・飢饉といった社会不安が訪れ、それまで貴族が現世祈祷



をするための仏教から、民衆のすくい
に目を向けた仏教が広まるのです。平
家物語の中では法然聖人が所々で登場
します。